

岡山県感染症週報

2016年 第35週 (8月29日～9月4日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

◆2016年 第35週 (8/29～9/4) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第33週 2類感染症 結核 3名 (60代 男 1名、70代 男 1名、80代 男 1名)
 第34週 2類感染症 結核 4名 (60代 女 1名、70代 男 1名、80代 男 1名・女 1名)
 5類感染症 破傷風 1名 (70代 女)
 第35週 2類感染症 結核 3名 (30代 女 1名、50代 男 1名、70代 女 1名)
 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O165:小学生 男)
 5類感染症 急性脳炎 1名 (小学生 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で44名 (定点あたり0.61 → 0.81人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

【第36週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名 (O157:20代 女) の発生がありました。(9月6日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第35週に1名の報告があり、2016年第35週まで(～9/4)の累計報告数は29名となりました。さらに第36週(9/6)にも1名の報告があり、患者の発生がつづいています。岡山県では「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
2. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で44名 (定点あたり0.61 → 0.81人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、真庭地域(1.50人)、美作地域(1.33人)、倉敷市(1.27人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、全ての地域で患者が報告されています。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	▲	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★★★
感染性胃腸炎	▲	★	水痘	▼	★
手足口病	▲	★	伝染性紅斑	▲	★
突発性発疹	▲	★★	百日咳	▲	★
ヘルパンギーナ	▲	★	流行性耳下腺炎	▲	★★
急性出血性結膜炎	▲	★★★★	流行性角結膜炎	▼	★
細菌性髄膜炎	▲		無菌性髄膜炎	▲	★★★★★
マイコプラズマ肺炎	▲	★	クラミジア肺炎	▲	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。		

【記号の説明】 前週からの推移: ▲: 大幅な増加 ▲: 増加 ▲: ほぼ増減なし ▼: 大幅な減少 ▼: 減少
 大幅: 前週比100%以上の増減 増加・減少: 前週比10～100%未満の増減

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白: 発生なし ★: わずか ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～ 知っていますか？「結核」が、現代の病気だってコト。～

日本において、結核は過去の病気ではなく、1日に50人、年間18,000人が新たに発症し、2,000人の方が亡くなっている重大な感染症です。日本では、結核を知り、正しい知識を深める期間として9月24日～30日を「結核予防週間」としています。「結核予防週間」には、結核予防意識の一層の普及を図るため、街頭キャンペーンや各保健所・市町村での普及啓発活動などを行っています。

- 咳が2週間以上続く。
- 微熱が2週間以上続く。
- 体がだるい。
- 急に体重が減った。



こんな症状が続いたら、結核かもしれません。
早めに診察を受けましょう。

【結核とは】

結核菌という細菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。主に、咳などの飛沫により感染します。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともありますが、初期には無症状のことも多くあります。肺以外の腎臓、骨、腸管など身体のあらゆる部分に病巣を作ることもあります。

【結核の予防接種や検診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後1歳までには、必ずBCGワクチンを接種するようにしましょう。

(予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。)

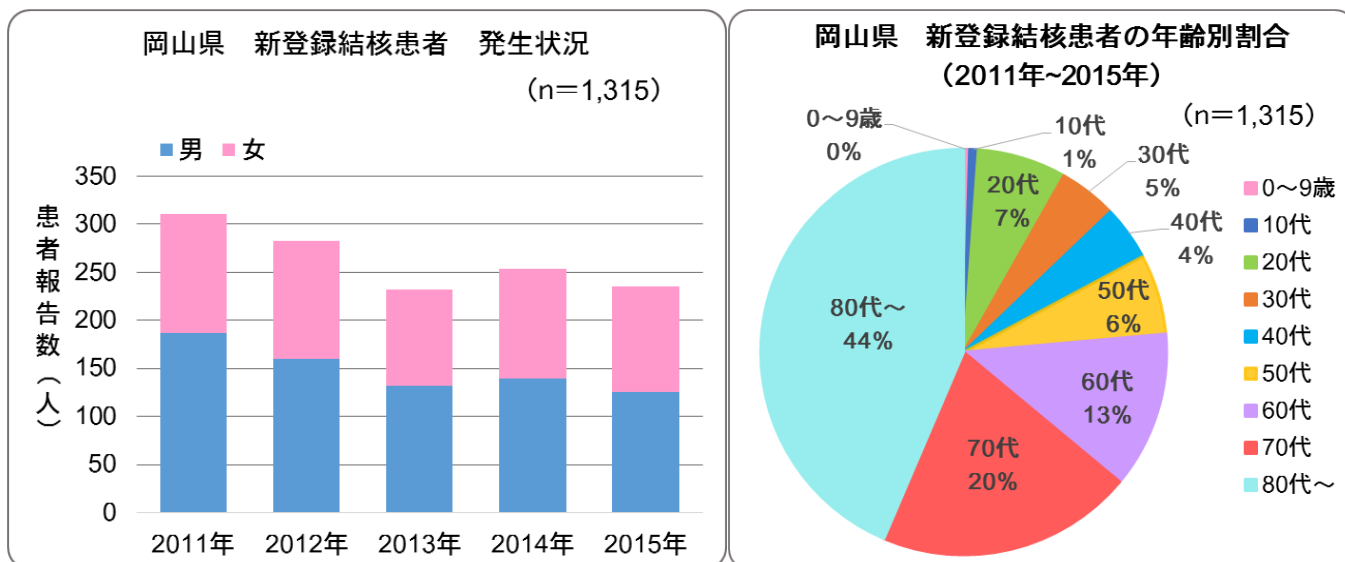
また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1年に1回は検診を受けましょう。

< 一般向け > [結核とは？（結核研究所）](#)

< 医療従事者向け > [結核医療相談・技術支援センターを開設しています！（岡山県 健康推進課）](#)
[結核研究所 Q&A 集 医療従事者の方向け（結核研究所）](#)

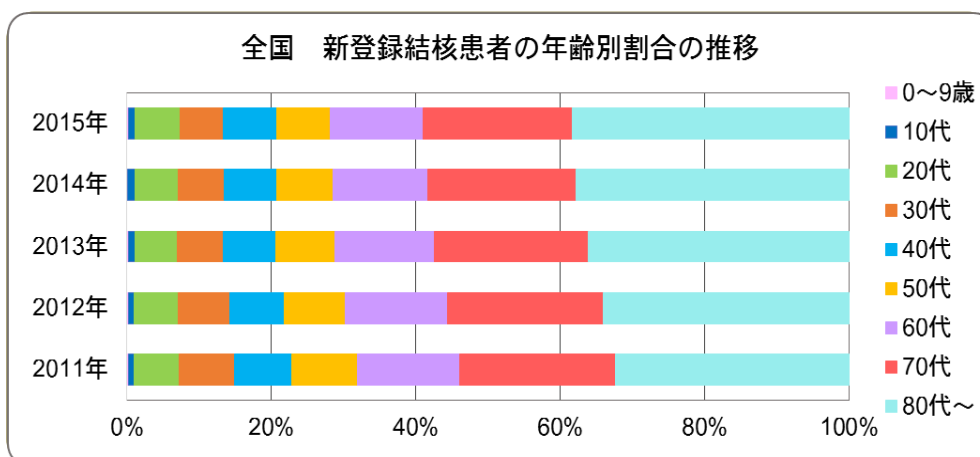
【岡山県の結核発生状況】

2016 年第 35 週まで（～9/4）に報告された結核発生届は、201 件（患者 134、無症状病原体保有者 65、疑似症患者 1、死亡者 1）となっています。2015 年に岡山県内で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は 235 名で、前年（254 名）より減少はしたものの、依然として毎年 200 名以上の患者が報告されています。年齢別では、80 歳以上が最も多くなっており、70～80 歳以上の高齢者が新登録結核患者の 60% 以上を占めています。



【全国の結核発生状況】

2015 年の厚生労働省の結核登録者情報調査年報によると、全国の新登録結核患者は 18,280 名で、前年（19,615 名）より減少しました。年齢別では、70 歳以上の新登録結核患者が全体の 58.9% を占めており、患者が年々高齢化しています。全国の人口 10 万人あたり罹患率は 14.4 で、前年（15.4）よりわずかに減少しました。都道府県別の罹患率は、大阪府が 23.5 と最も高く、次いで兵庫県・東京都・大分県が 17.1 となっています。岡山県の罹患率は、12.2 で、前年（13.2）よりわずかに減少しました。



保健所別報告患者数 2016年 35週(定点把握)

(2016/08/29～2016/09/04)

2016年9月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	—	—	1	0.06	—	—	—	—	—	—	10	3.33	—	—
RSウイルス感染症	13	0.24	2	0.14	3	0.27	—	—	3	0.43	—	—	—	—	5	0.83
咽頭結膜熱	10	0.19	6	0.43	—	—	—	—	3	0.43	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	8	0.57	14	1.27	6	0.60	3	0.43	2	0.50	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	244	4.52	61	4.36	49	4.45	44	4.40	21	3.00	24	6.00	4	2.00	41	6.83
水痘	8	0.15	5	0.36	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	11	0.20	10	0.71	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	33	0.61	14	1.00	6	0.55	3	0.30	1	0.14	—	—	—	—	9	1.50
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	26	0.48	6	0.43	9	0.82	4	0.40	4	0.57	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	45	0.83	21	1.50	15	1.36	4	0.40	5	0.71	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	4	0.80	—	—	4	4.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	—	—	4	4.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2016年 35週(発生レベル設定疾患) (2016/08/29～2016/09/04)

2016年9月8日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	11	0.13	—	—	1	0.06	—	—	—	—	—	—	10	3.33	—	—
咽頭結膜熱	10	0.19	6	0.43	—	—	—	—	3	0.43	—	—	—	—	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	0.81	8	0.57	14	1.27	6	0.60	3	0.43	2	0.50	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	244	4.52	61	4.36	49	4.45	44	4.40	21	3.00	24	6.00	4	2.00	41	6.83
水痘	8	0.15	5	0.36	1	0.09	—	—	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	11	0.20	10	0.71	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	3	0.06	1	0.07	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	26	0.48	6	0.43	9	0.82	4	0.40	4	0.57	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	45	0.83	21	1.50	15	1.36	4	0.40	5	0.71	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	1	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第35週 2016/08/29～2016/09/04)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	11	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	1	2	－	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	13	2	8	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	10	－	－	3	2	1	1	1	1	－	1	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	1	1	2	2	5	5	7	11	1	1	2	3	1	2
感染性胃腸炎	244	4	18	43	29	18	16	9	15	10	5	7	28	11	31
水痘	8	－	1	1	－	－	2	－	－	－	2	－	1	－	1
手足口病	11	1	－	2	4	－	－	2	1	1	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	3	－	－	－	－	2	－	－	1	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	33	1	13	17	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
ヘルパンギーナ	26	－	2	5	9	2	3	2	2	－	－	－	1	－	－
流行性耳下腺炎	45	－	－	3	5	5	6	8	6	3	1	4	2	－	2

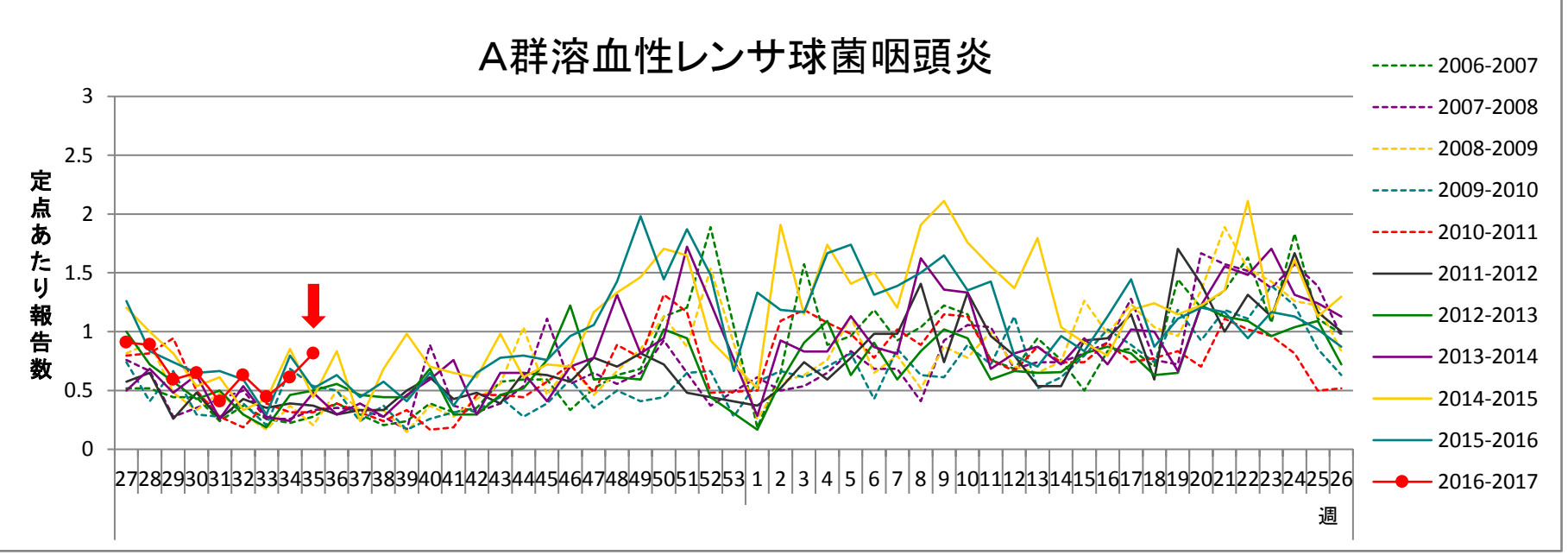
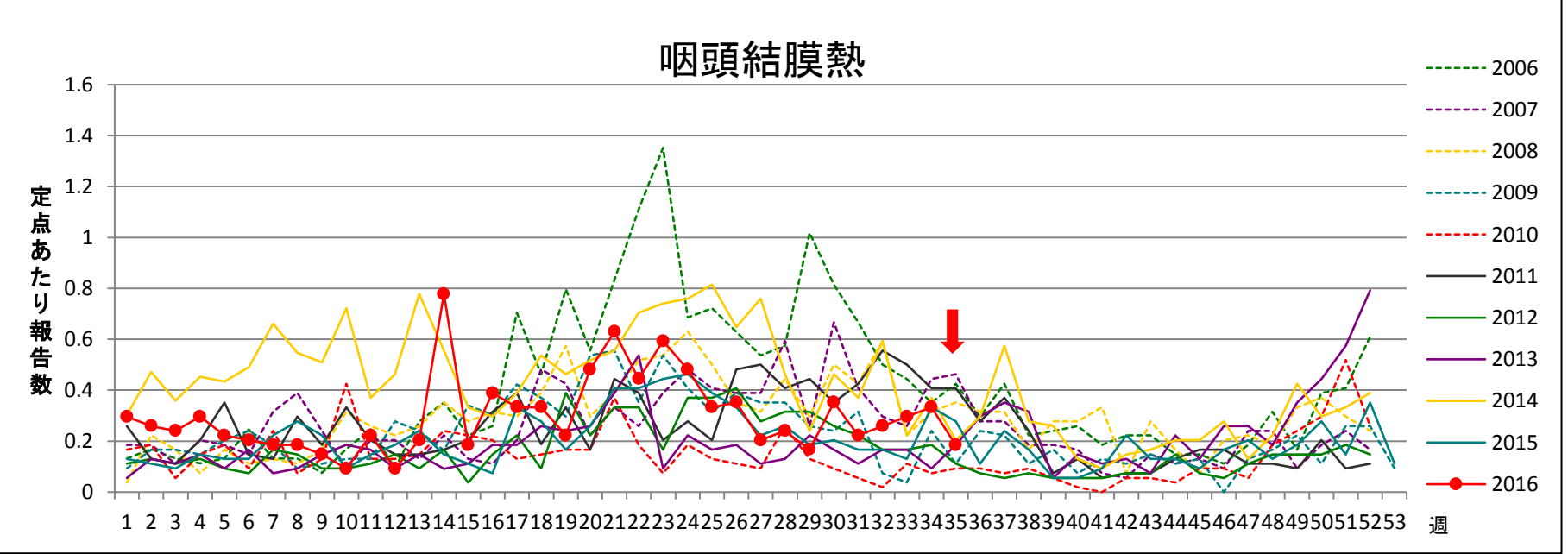
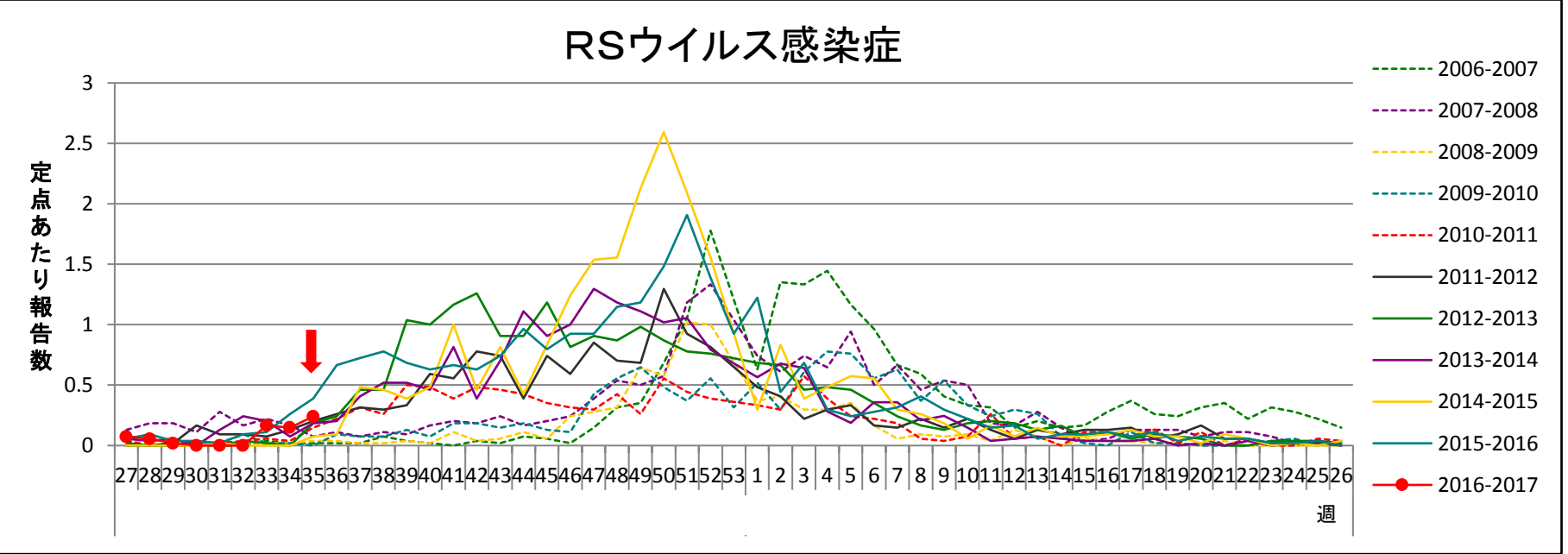
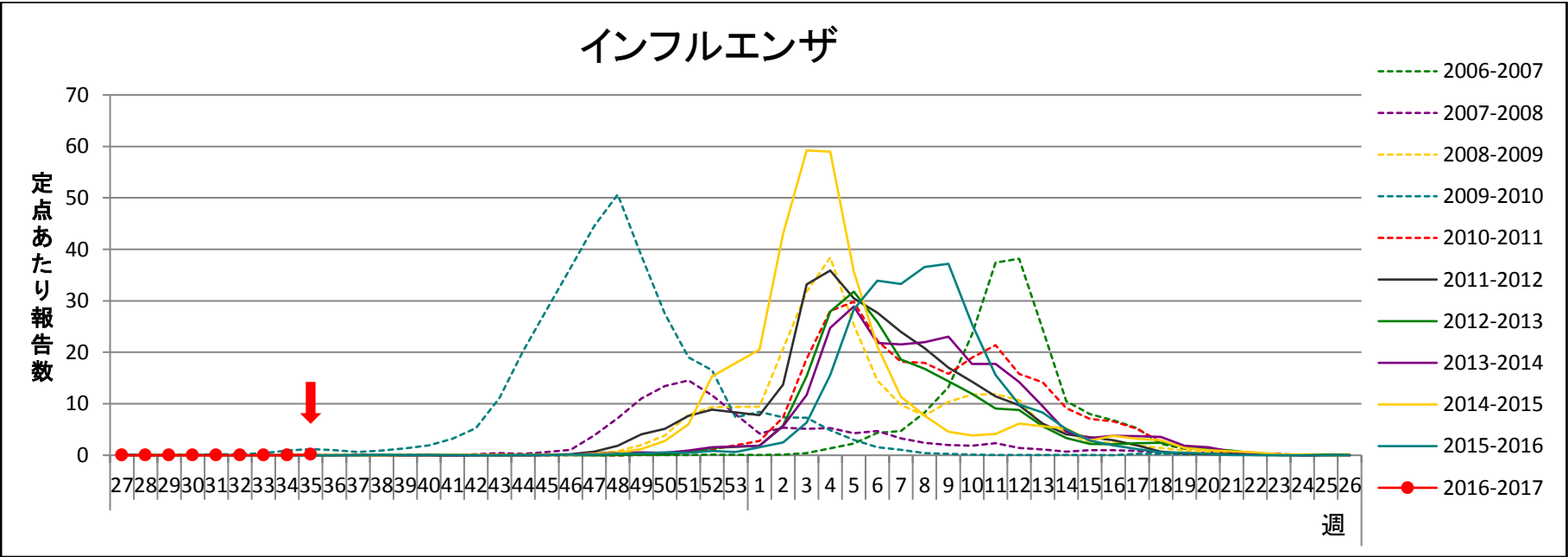
疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—
流行性角結膜炎	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	4	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

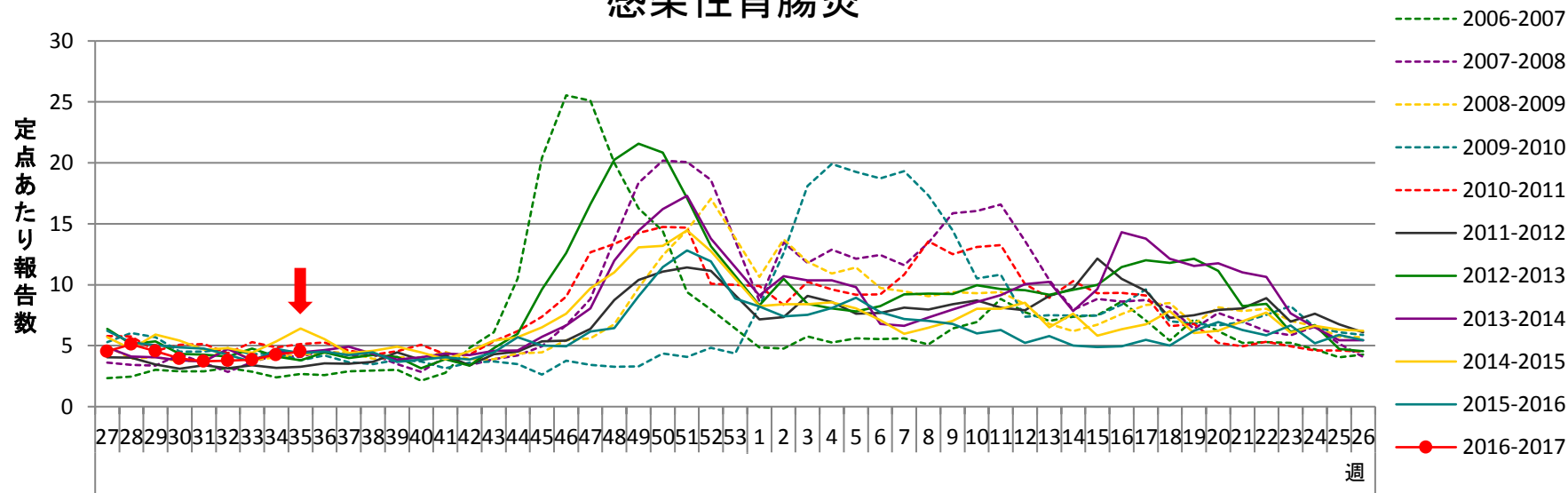
(- : 0)

2016 年 35 週

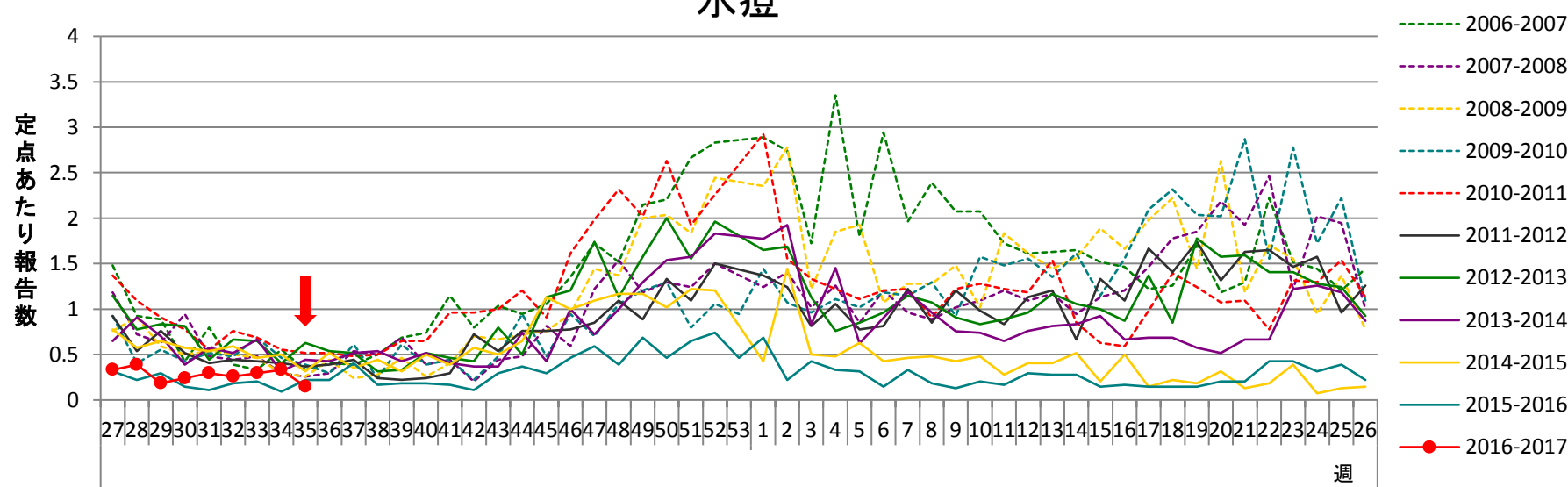
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	201	374	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	2	腸管出血性大腸菌感染症	1	29	63
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	2	3	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	2	9
	エキノコックス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	1
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	1	－
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	1
	デング熱	－	－	2	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	1	3
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	2
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	19	28
	レプトスピラ症	－	－	－	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	14	17	ウイルス性肝炎*3	－	3	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	17	34
	急性脳炎*4	1	8	14	クリプトスポリジウム症	－	－	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	2	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	6	2	後天性免疫不全症候群	－	8	21	ジアルジア症	－	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	5	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	20	35
	水痘(入院例に限る。)	－	1	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	24	25
	播種性クリプトコックス症	－	1	1	破傷風	－	2	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	－	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	－
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



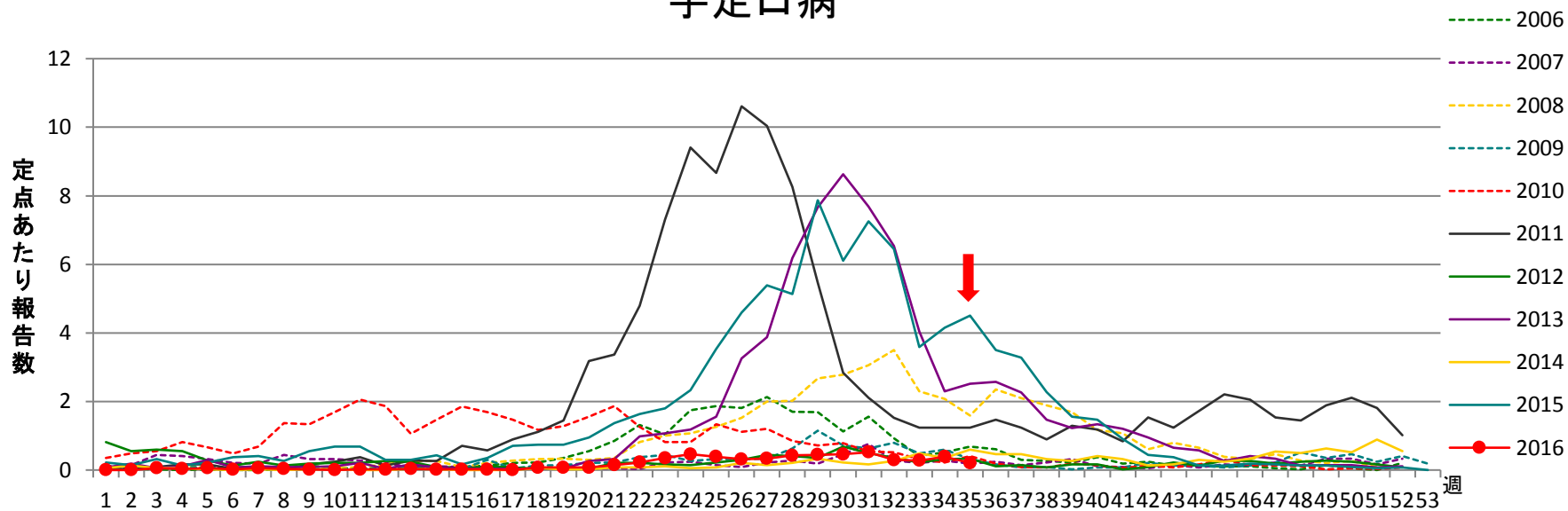
感染性胃腸炎



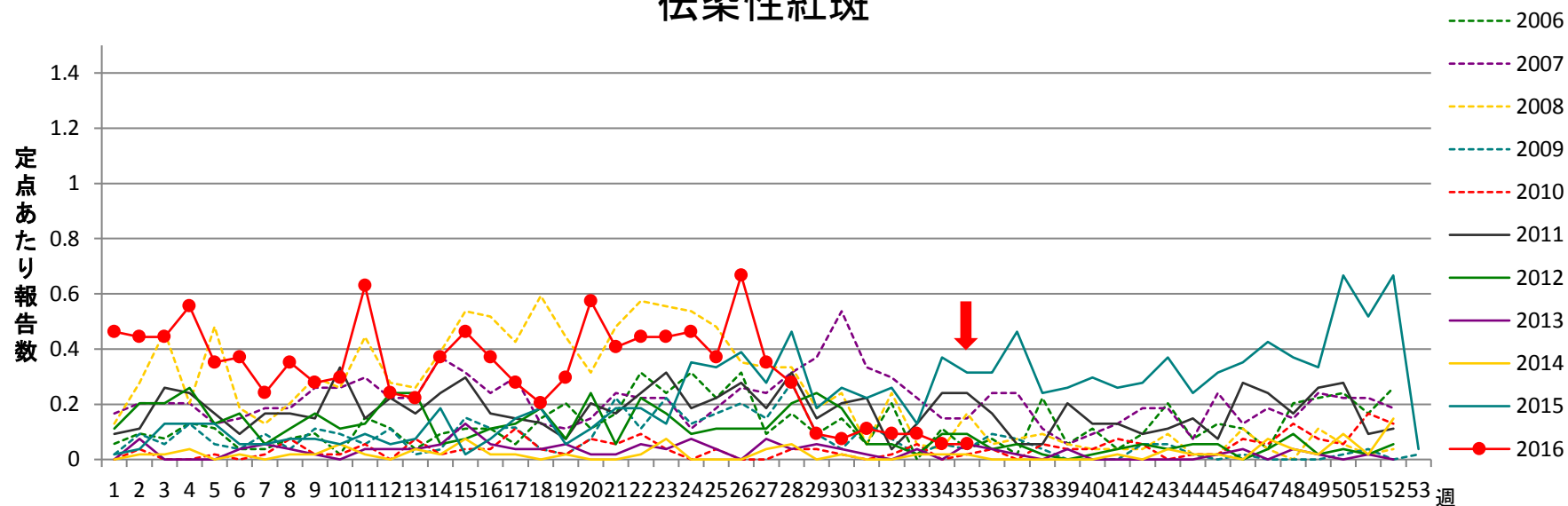
水痘



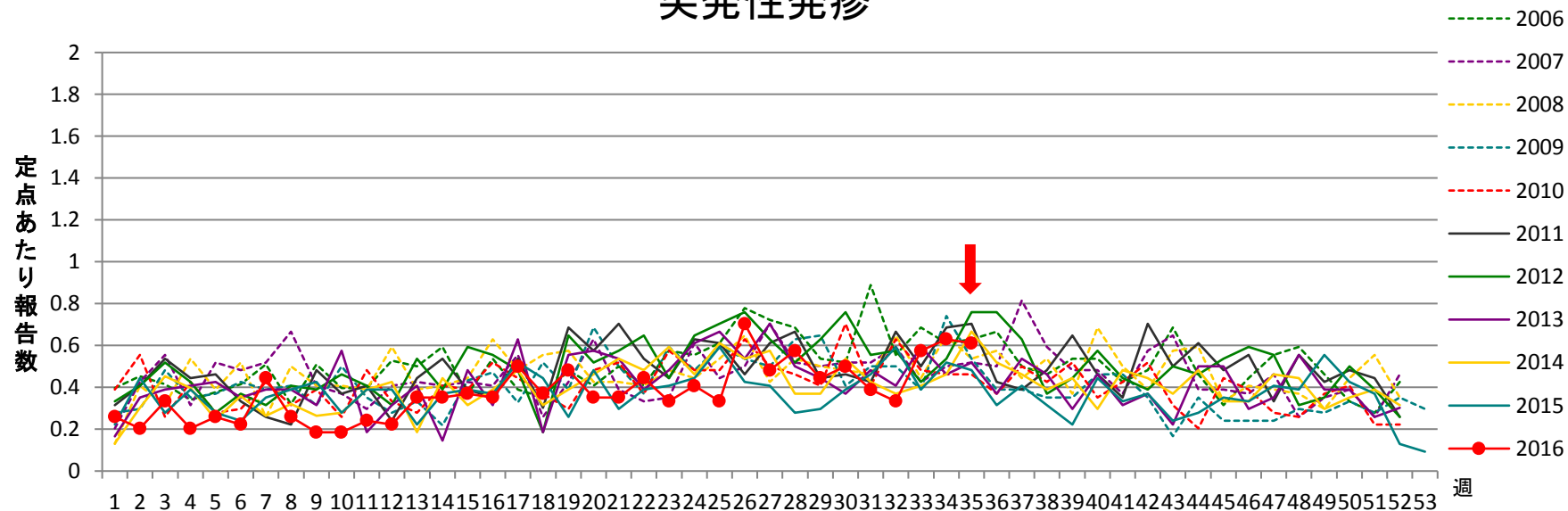
手足口病



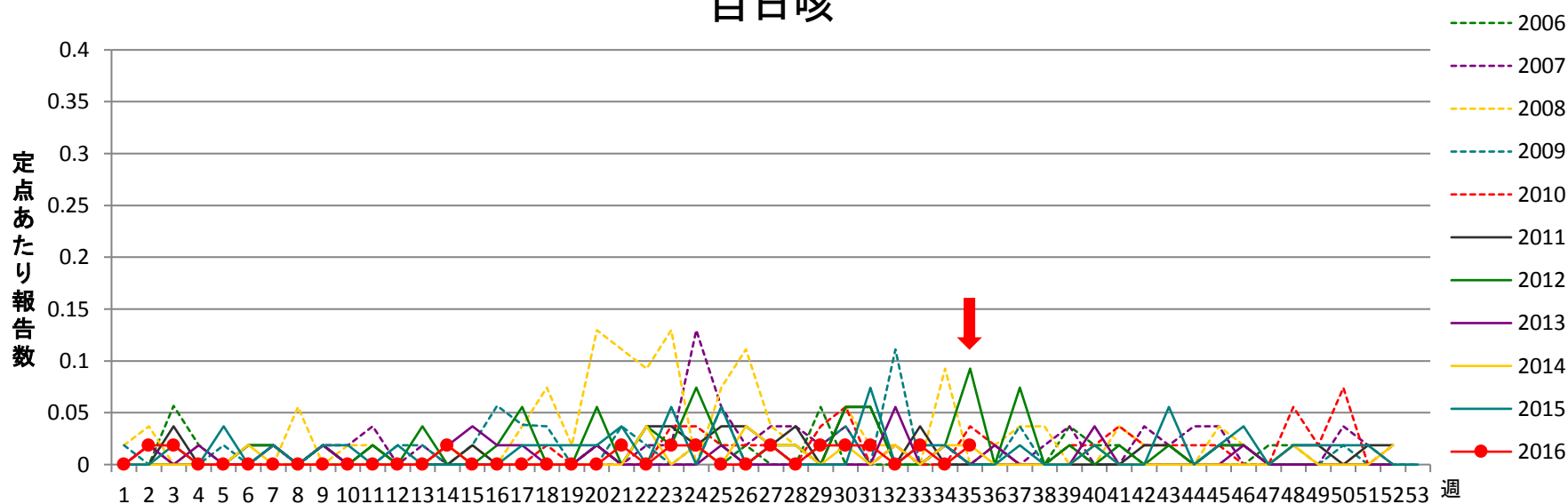
伝染性紅斑



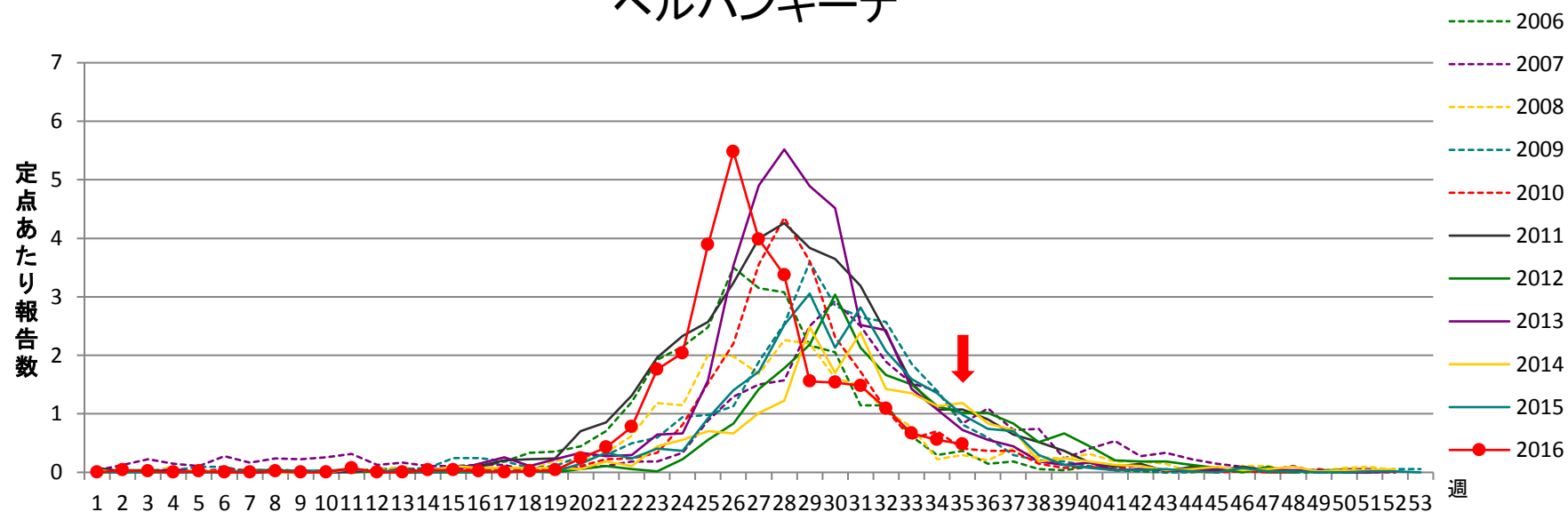
突発性発疹



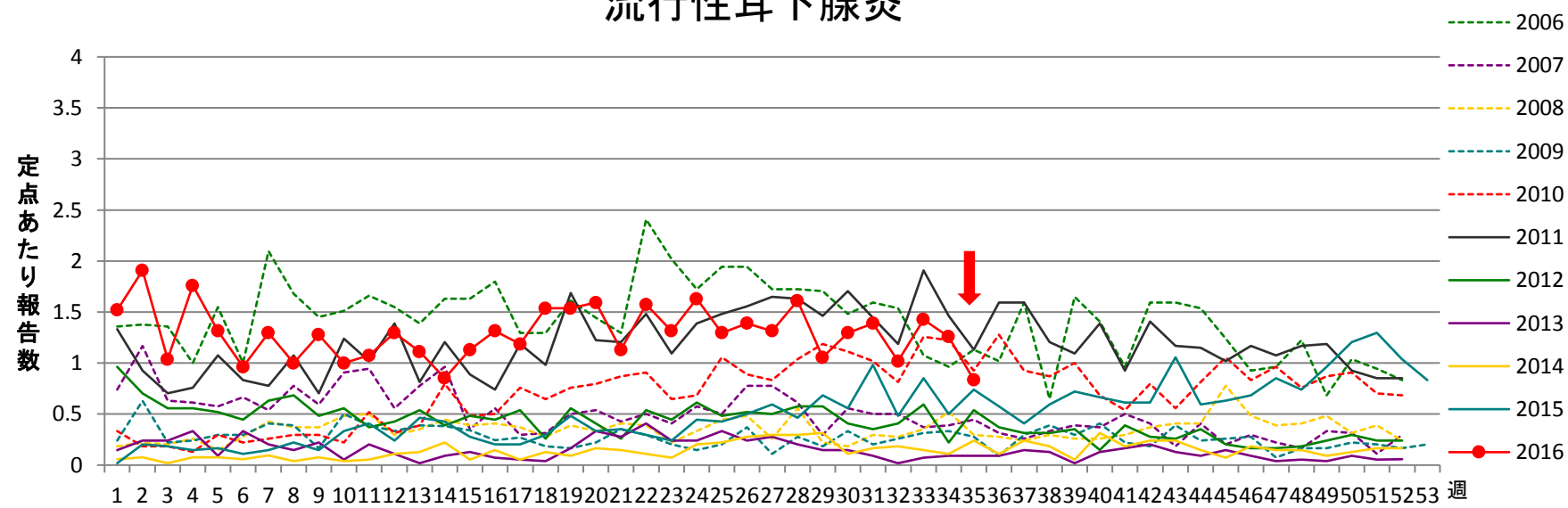
百日咳



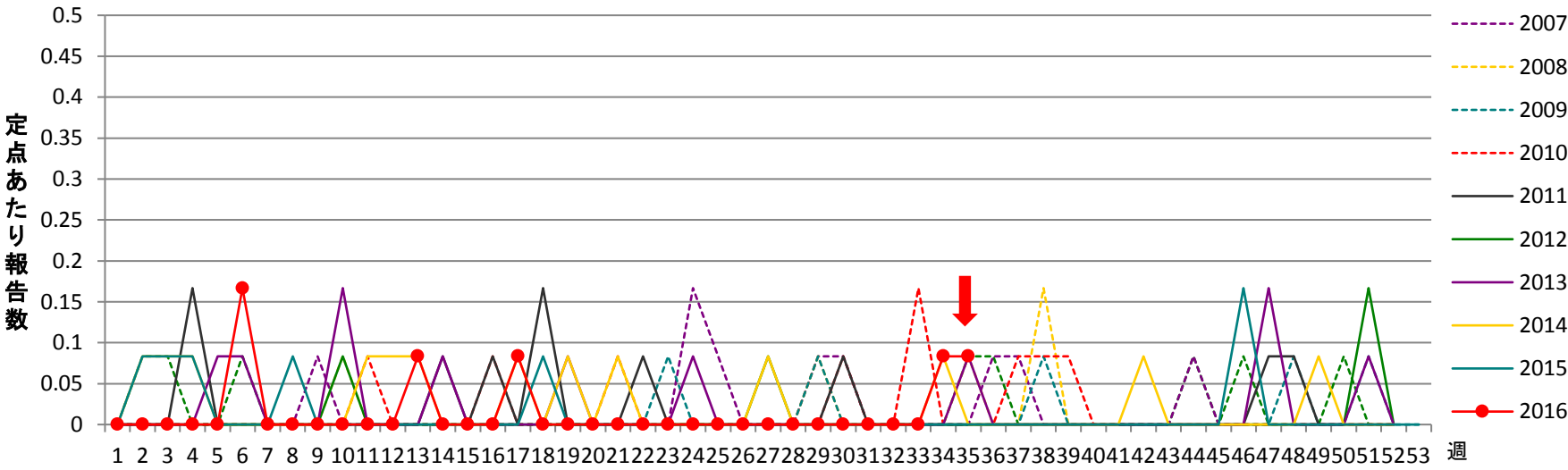
ヘルパンギーナ



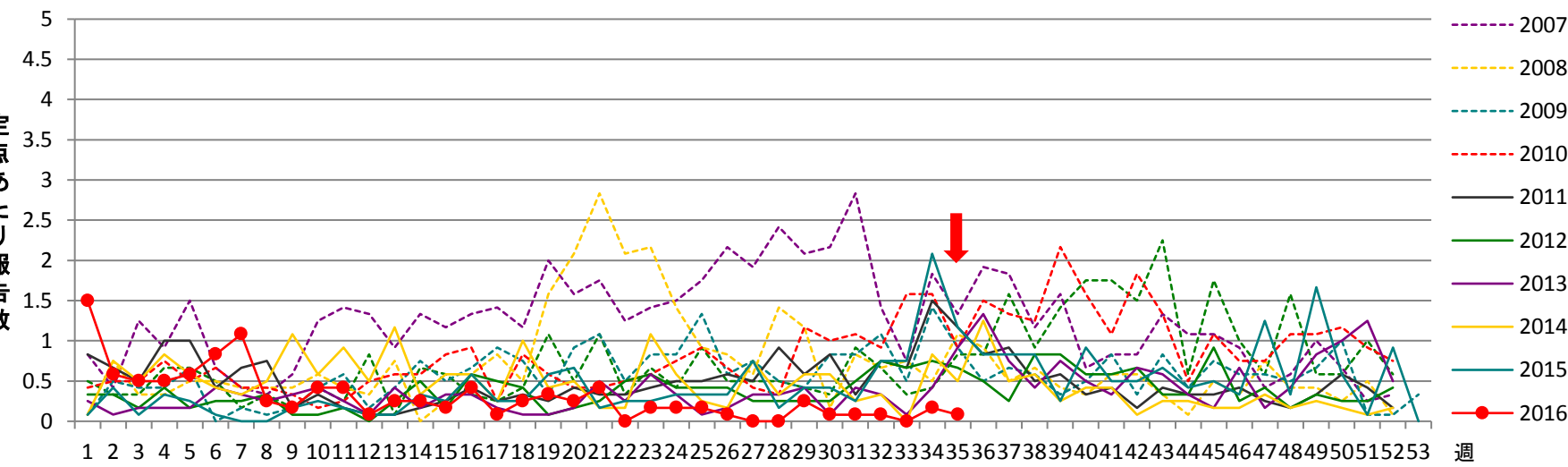
流行性耳下腺炎



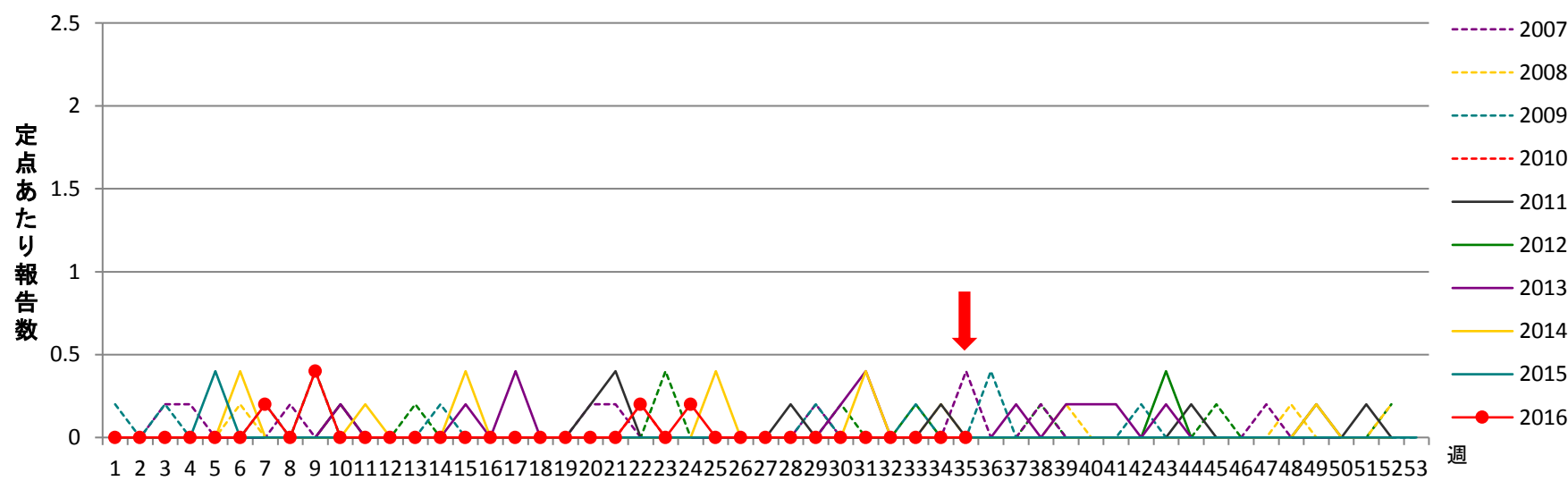
急性出血性結膜炎



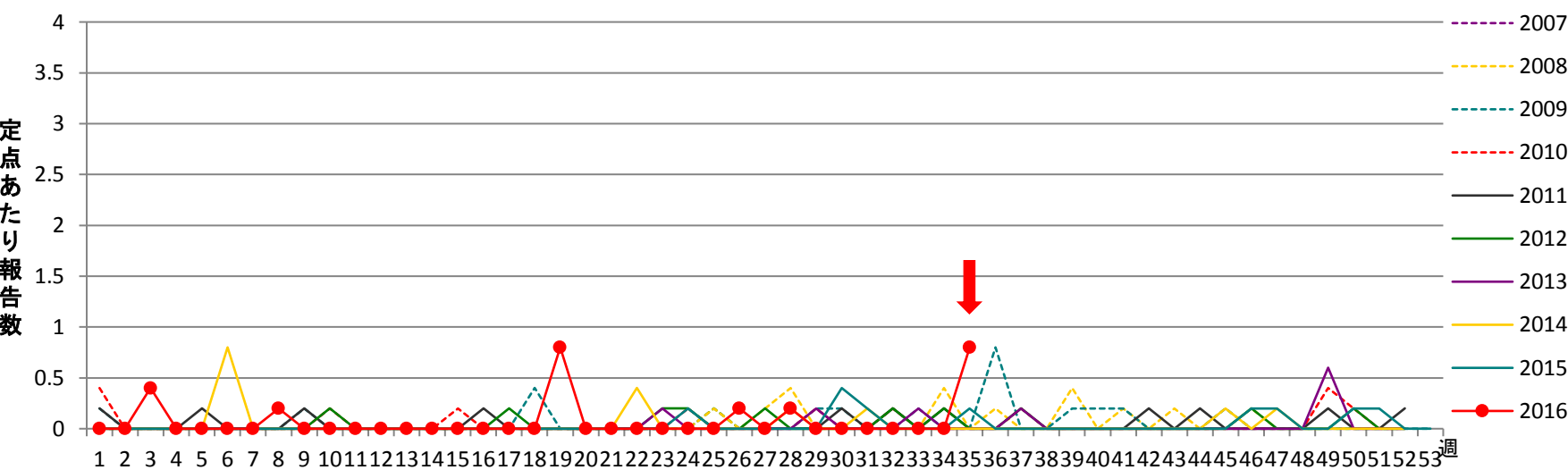
流行性角結膜炎



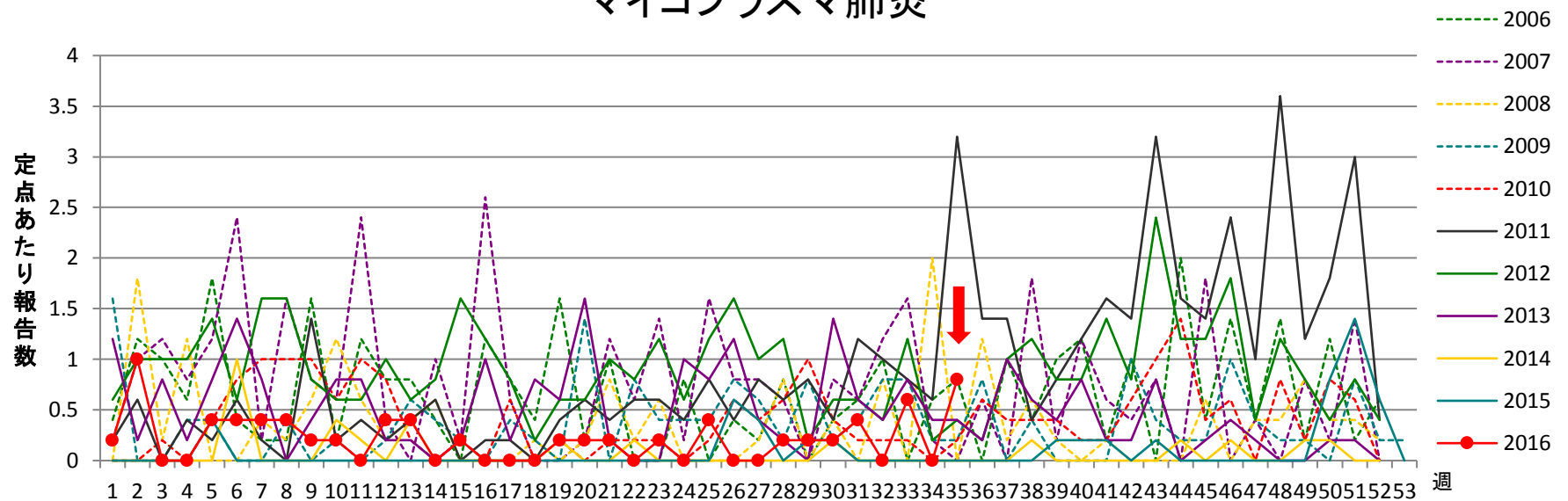
細菌性髄膜炎



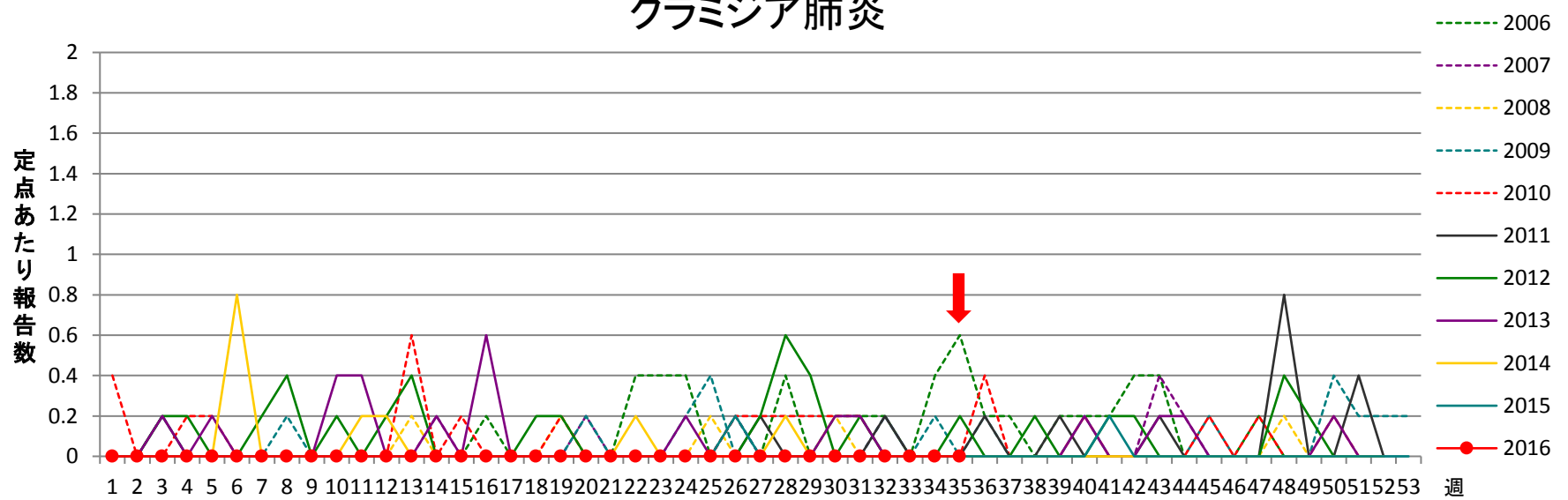
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

